

閉会の挨拶

(財) 集団力学研究所 副所長
京都大学 教育学部 教授

杉万俊夫

閉会のあいさつということで、一言述べさせていただきます。今日は、午後いっぱい長時間のシンポジウムでしたけれども、いかがでしたでしょうか。コミュニケーションの集団力学をエンジョイしていただけたということであれば、幸いです。ここで、型どおりのごあいさつを申し上げてもいいのですが、せっきく 10 分足らずの時間をいただいていますので、少し集団力学研究所の活動について、皆さま方にご紹介したいと思います。

集団力学研究所の活動は、大きく分けて研究活動、広報活動に分けられます。研究活動は、さらに組織の研究、教育の研究、コミュニティの研究、それから 4 番目が国際的研究、国際的な交流です。しかし、普段、国際交流についてはご紹介する機会が少ないものですから、今日は少しスライドを用意してきました。

集団力学研究所は、いろんな国と国際交流を推進しております。このスライドは、ご参加いただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、一昨年の春秋セミナーの写真です。講師は、来日中だったフランスのボルドー・マネジメント・スクールのタチアナ・シャミーバ教授です。ボルドー市と福岡市は姉妹都市です。



次は、アジアです。このスライドは、先ほどのパネルディスカッションの中でも触れましたパキスタンのカムラン先生です。カムラン先生には、昨年度のこのシンポジウムでパネリストの一人として、お話をいただきました。先ほどの野田さんのスリランカのお話のように、彼はパキスタンで住民主体のまちづくりをしています。

SOCIAL MARKETING: GROUP DYNAMICS AS A STRATEGIC TOOL FOR SOCIAL MARKETING

Muhammad Kamran Naqi Khan



...urn on Marketing
...for Group Dynamic
...KA, JAPAN
...ry 20,2009



それから、アフリカ。このスライドは、これもパネルディスカッションで触れましたスーダンです。「スーダンってどこにあるの?」という方も多いと思いますので、地図も用意しました。エジプトの真南ですね。詳しい話は割愛しますが、スーダンは長年内戦で苦しんできた国で、今もおダルフール紛争が続いています。その結果、大量の国内避難民を抱えています。そういう人たちの生活環境

をどう改善していくのか、それについて現地の研究者と共同研究をしています。

スライドの左下側は、そろばん教室です。数年前に私の研究室に滞在しておりましたハルツーム大学のカーリーファ教授が英才教育の研究をしていました。やはり今から伸びようという国ですから、英才教育をしてリーダーを養成したいんですね。ところが、日本には英才教育というのはないんですね。で



も、彼は、日本の普通の小中学校を見ながら英才教育に使えるものを見つけて、それを母国の英才教育の参考にしました。その一つがそろばんだったのです。こういう試みを通じて、日本とスーダンの懸け橋ができると思います。

このスライドは、3年前の春秋セミナーで私が報告したんですが、中国・内モンゴルの砂漠化防止活動です。

福岡にも黄砂が降りますが、内モンゴルから飛んできています。これが10年ちょっと前、緑化運動を始める前の写真です。

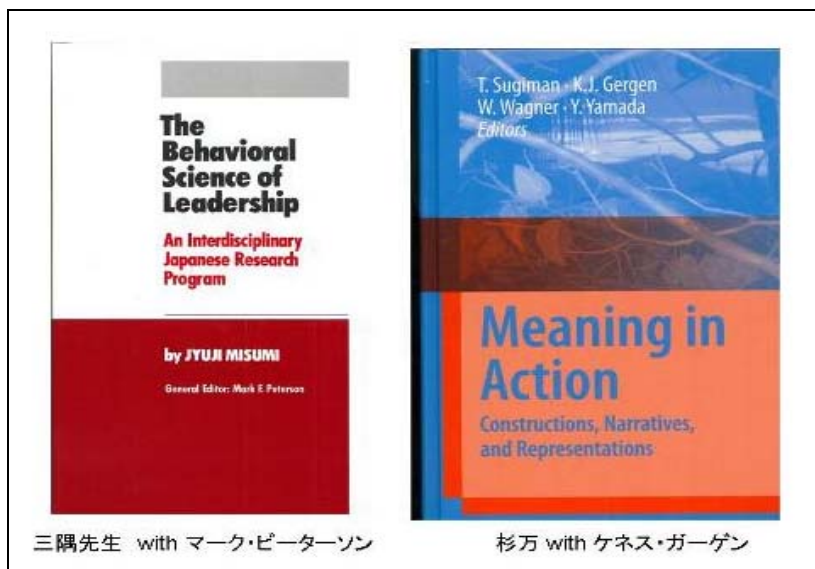
これが、こうやっというろ日本からツアーで若い人にも行ってもらって、緑化していきました。

左の方に写っているのは、中国社会科学院の羅 紅光(ら・こうこう)先生です。

緑化運動は中国社会科学院ともタイアップしながらやっています。今の課題は、この緑になった土地を、いかにして住民たちに返していくかです。こういう中国との交流も行っています。



最後にアメリカ。アメリカとの共同研究はたくさんありますので、個々の研究の紹介はやめて、2冊の本を紹介するだけにとどめます。



左側の本は、今は亡き三隅先生の PM 理論を英訳した本です。タイトルを日本語で言いますと、『リーダーシップの行動科学：日本における国際的研究』です。この本は、マーク・ピーターソンというアメリカの研究者が英訳・編集をしました。

右側の本は、私がアメリカのケネス・ガーゲンと編集した本です。『ミーニング・イン・アクション：行為の中での意味』というタイトルが示すように、「意味」という概念にこだわる研究論文を編集したものです。

もちろん、集団力学研究所は、外国のことばかりやっているのではなく、ちゃんと地元のことにも研究しています。これは、昨年開始しました山笠研究についての西日本新聞の記事です。「博多山笠の集団力学」という、わが研究所としては最高のヘッドラインにさせていただきました。どうもありがとうございました。

集団力学研究所は、発足から 43 年の歴史になります。公益法人の制度も変わりますので、そのための体制作りにも取り組んでいます。今後とも、これまでに勝るとも劣らない努力を積み重ねていく所存です。どうぞよろしくご支援のほどをお願いいたします。

それでは、これで、本日のシンポジウムを閉じさせていただきます。どうもお疲れさまでした。ご協力ありがとうございました。

